

NEWS 4 「電子部品技術ロードマップ」個別講演会開催

日本伸銅協会は、昨年11月8日電子部品メーカーで構成される(一社)電子情報技術産業協会(JEITA)作成の「2026年までの電子部品技術ロードマップ」の個別講演会を開催した。伸銅品の重要ユーザーであるアルプス電気(株)、(株)タムラ製作所、(株)村田製作所、SMK(株)、特定非営利活動法人(NPO)サーキットネットワーク等の技術者による電子材料の将来動向に関する講演が行われた。(敬称略)



TOPICS 1 東京・調布深大寺の「銅造釈迦如来像」国宝指定

「深大寺そば」で有名な東京・調布市の深大寺に安置される「銅造釈迦如来像(白鳳仏)」が、このほど国宝に指定された。

この白鳳仏は7世紀後半の白鳳時代に铸造されたものとみられ、国宝指定の仏像では「鎌倉大仏」で知られる高德院(鎌倉市)の阿弥陀如来像より500年以上古い関東最古のもので、都内では2体目の指定となる。

作風などから法隆寺(奈良県斑鳩町)の国宝「夢違観音立像」や新薬師寺(奈良市)の重要文化財「銅造薬師如来立像」と同じ工房で铸造された可能性も指摘されている。



(右)国宝に指定された「白鳳仏」
(上)像が安置されている「釈迦堂」

TOPICS 2 「第66回東京藝術大学卒業・修了作品展」開催

今年1月28日～2月3日、東京藝術大学 美術学部・大学院美術研究科修士課程の卒業・修了作品展が開催された。

作品点数が多いため、東京上野の同大学構内および東京都美術館に分けて開かれ、絵画、彫刻、工芸、デザイン、建築、先端芸術等、幅広い分野の作品が披露された。銅や真鍮などを使用した作品も多く、会場には、夢と熱と若さが溢れていた。



編集後記

銅は紀元前8000年頃から人類が初めて使った金属と言われ、また紀元前6000年頃には火で溶かす鑄造技術が用いられていたそうです。
時代と共に技術は進歩し伝統が引き継がれて無形文化財にもなり、その造形物は

世界遺産へと繋がっています。単なる金属を意味のある貴重なものとして残していくことが我々の務めではないかと感じる次第です。
編集デスク 森川 純一(日本銅センター)

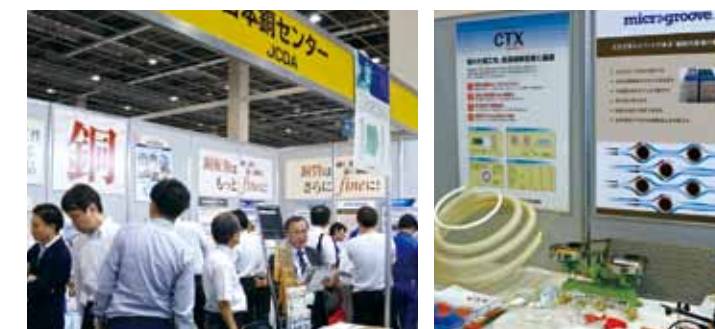
情報発信委員会

〈委員長〉磯部剛(古河電気工業(株))
〈委員〉鉦山/村木剛(三菱マテリアル(株))、
菱田謙一郎(パンパシフィック・カッパー(株))、
水谷順二(日本鋳業協会)
伸銅/米津伸保((株)神戸製鋼所)、
鎌田俊一((一社)日本伸銅協会)
電線/吉村志登美((株)フジクラ)、
大木啓一((一社)日本電線工業会)、
((一社)日本銅センター)和田正彦、幸洋二、仙田繁

NEWS 1 「第4回関西高機能金属展」に出典

日本銅センターでは、昨年9月20日～22日にインテックス大阪で開催された「第4回関西高機能金属展」に日本伸銅協会と共同で出展した。

「銅はさらにfineに」を主テーマとし、「細く、薄く、強く、繊細に」を実現する銅板条や銅管などの展示を行った。また本年度からスタートした殺菌銅マーク(CU STAR)の認定商品も紹介し、多くの来場者に高機能銅製品をPRした。



NEWS 2 「水素社会への道」勉強会開催

日本伸銅協会は、昨年10月18日、住友化学株式会社 主幹 塩沢文朗氏による勉強会「水素社会への道」を開催した。戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「エネルギーキャリア」サブ・プログラムディレクターである同氏の幅広い知見をもとに、水素社会実現へ向けた取り組み、技術的課題などを広く学んだ。



NEWS 3 銅 Cu STAR マーク認定製品紹介

殺菌銅一般製品

2017年9月7日認定

フリーブレンド工法を活用した殺菌銅製品
Plapper

(株)第一精工舎

プラスチックパウダーに銅のパウダーを高配合でブレンド。銅が持つ高い殺菌効果を維持しながら、プラスチックの特徴である低コストや生産性の高さ、形状の自由度を実現。複雑な形状の銅製品を生産可能にした。



Plapperの用途例

殺菌銅繊維製品

2017年12月19日認定

特許技術による殺菌銅繊維
COPLON® 銅布地

コデラカプロン(株)

産学連携による共同特許技術が生み出した銅及び銅合金素材の殺菌性を活かした銅燃糸を織り込んだCOPLON®銅布地は、耐久性・耐食性・洗濯性・腐食性・殺菌性・消臭性に優れるとともに、どのような織り方にも応用が可能。



COPLON® 銅布地素材

COPLON® の用途例